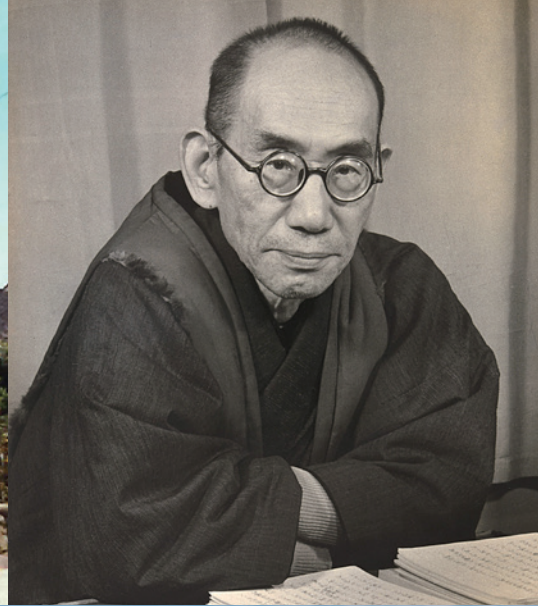




旧西田記念館（昭和 54 年頃）



平成 14 年 6 月に開館した石川県西田幾多郎記念哲学館は、今年で 20 周年を迎えます。前身の西田記念館から受け継いだ収蔵資料は、開館以降の寄贈（寄託）や購入により 3,700 点にのぼっています。この 20 年間に新収蔵した資料の中から、選りすぐりの未公開資料を展示します。資料の伝来から幾多郎の人柄がみえる寄贈品や、新資料の発見により判明したエピソードなど、長い歴史がある人物記念館ならではの資料も紹介します。絶筆「私の論理について」、未発表原稿も初公開！この機会をお見逃しなく。



# 20 年間の新収蔵品展

## 令和 4 年 3/23 (水) ~ 9/25 (日)

(2022 年)

※新型コロナウイルスの感染状況により変更となる場合があります。ご来場の前にホームページをご確認ください。

### 【企画展関連イベント】

**講演会 「哲学館と西田哲学の 20 年」**  
— 人間像と思索の変遷を辿る —

講師：浅見洋（哲学館館長）

【日 時】 5/21 (土) 13:30~15:30 [参加費] 500 円 (要申込)

\* 本講演会は「西田幾多郎哲学講座」を兼ねています。哲学講座年間受講者は参加費不要です。

同時開催

**「西田哲学館 20年の歩み展」**

【会 期】 5/19 (木) \* 幾多郎誕生日 ~ 7/18 (月・祝)

【場 所】 石川県西田幾多郎記念哲学館 ホワイエ [観覧無料]

**石川県 西田幾多郎記念哲学館**  
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井 1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail [nishida-museum@city.kahoku.lg.jp](mailto:nishida-museum@city.kahoku.lg.jp)

■facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。



観覧時間 ■ 9:00 ~ 17:00 (入室は 16:30 まで)

休 館 日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始、メンテナンス期間

観 覧 料 ■ 一般 300 円 (団体 250 円・20 名以上) / 高齢者 (65 歳以上) 200 円

／ 高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方および介助者 1 名無料

交通アクセス

【車 利 用】 北陸自動車道 [金沢東 IC] - 国道 159 号線 (約 20 分)

のり山海道 [白尾 IC] - (約 5 分)

【JR 利 用】 金沢駅 - IR いしかわ鉄道線・七尾線 (約 25 分) - 宇野気駅 -

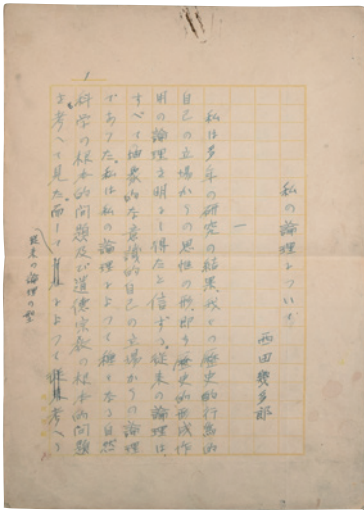
- 徒歩 (約 20 分) - 哲学館



# 20年間の 新収蔵品展

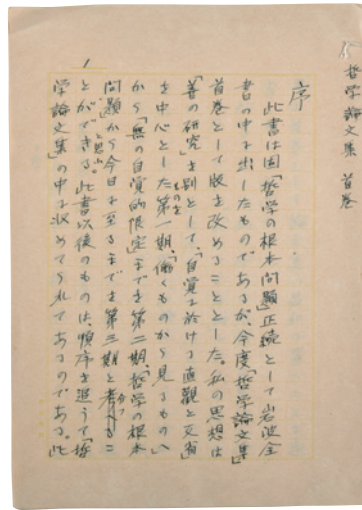
令和4年  
(2022年) 3/23(水)~9/25(日)

## 【主な展示内容】



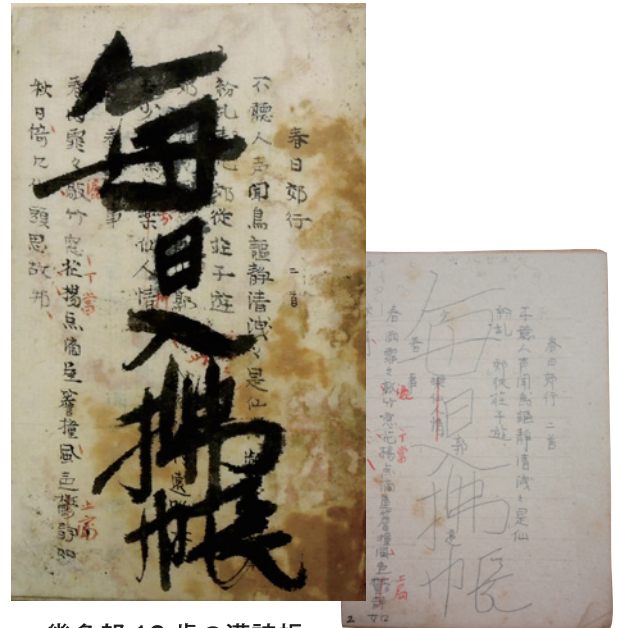
絶筆原稿  
「私の論理について」5枚  
昭和20(1945)年6月

幾多郎が亡くなる一週間前に書き始めた最後の論文。6月1日午前中まで執筆し、昼食後にけいれんを起し昏睡状態となったため未完のまま。冒頭の書き損じ1枚も残っており、こちらも初公開。



未発表原稿  
「哲学論文集 首巻 序」5枚  
昭和19(1944)年9月

幾多郎は既刊本『哲学の根本問題(正・続)』の二巻を合本して、その頃シリーズ化して出版し続けていた『哲学論文集』(1~7まで刊行)の最初の巻(首巻)として出版するつもりだった。その序文原稿。当時の出版状況悪化が影響したのか、結局『首巻』は刊行されないままとなった。



幾多郎13歳の漢詩帳  
平成27(2015)年遺族より寄託

旧記念館から哲学館開館時まで展示していた「幾多郎13歳の漢詩帳」。しかしこれは、幾多郎の孫・幾久彦が書き写した鉛筆書きのもので、幾多郎直筆の筆書帳が別に発見された。新資料の発見と三女静子の書き残した文章により判明した。



電車に乗る幾多郎(年代不明)  
平成27(2015)年遺族より寄託

右列、子どもの奥に座るのが幾多郎。



幾多郎が使っていたとんび(コート)  
平成16(2004)年個人より寄贈

北鎌倉に住んでいた寄贈者両親宅に昭和24年泥棒が入り、衣類がなく困っていたところ、交流があった幾多郎の妻・琴から、幾多郎遺品であるコートを譲り受けた。